

外国特許トピックス

2019年5月
特許業務法人 志賀国際特許事務所
(外国事務部 加藤基志)

平素は格別のご高配を賜り厚くお礼申し上げます。
外国特許出願に関し、最近のトピックス等をお知らせいたします。

2018年の欧州特許出願統計

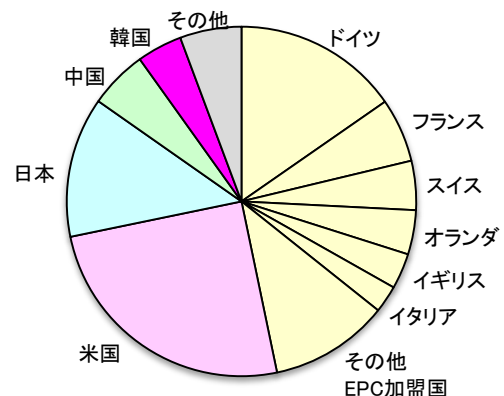
2018年における欧州特許出願統計が欧州特許庁より公表されました。今回はこの公表された情報に基づき、欧州特許出願の概況について紹介いたします。

1. 出願件数

2018年の欧州特許出願件数は、174,317件と発表されました。これは前年(確定数値 166,594件)との比較で4.6%増でした。ルート別内訳では、通常出願ルートが71,996件(前年比5.6%増)、PCTルートが102,321件(前年比3.9%増)となりました。

2. 上位出願国(10ヶ国)

順位	国名	2018年	前年比(%)	全体占有率
1	米国	43,612	+2.7%	25.0%
2	ドイツ	26,734	+4.7%	15.3%
3	日本	22,615	+3.9%	13.0%
4	フランス	10,317	-2.8%	5.9%
5	中国	9,401	+8.8%	5.4%
6	スイス	7,927	+7.8%	4.5%
7	韓国	7,296	+13.0%	4.2%
8	オランダ	7,140	+1.4%	4.1%
9	イギリス	5,736	+7.8%	3.3%
10	イタリア	4,399	+0.9%	2.5%
-	その他 EPC加盟国	19,215	+5.2%	11.0%
-	その他	9,925	+14.3%	5.8%
	合計	174,317	+4.6%	100.0%



2018年の出願上位10ヶ国は上記のとおりです。前回2017年の前年比で唯一減少していた韓国が10ヶ国中最も大きい伸びを見せてオランダと順位を入れ替えましたが、その他の順位、顔ぶれ、全体占有率は昨年とほとんど変わりません。前年比の伸び率が大きい国では、シンガポール(+20.2%)、オーストラリア(+16.3%)、ロシア(+13.4%)、台湾(+8.9%)などがあり、特許出願件数が少ない国々において著しい増加が見られたほか、EPC加盟国は全体的に前年より多くの出願を行い、広範囲の国が欧州特許の利用を増やしていることがうかがえます。一方、中国は過去5年間で最も低い伸び率となりました。これはコンピュータ技術、電気機械およびエネルギー、オーディオビジュアル技術など、中国国内で特許が集中している分野の一部で成長が鈍化したことによるものと分析されています。中国の2018年におけるPCT出願件数増加率が2002年以来最低だったことと重なり、中国経済成長率低下の影響がここにも出ているような印象を受けます。

手続き面において、審査(Article 94発行)件数は前年比で20.5%増加し、登録件数は前年比で20.8%増加と順調にバックログを減らしているようです。

3. 上位出願人(10社)

順位	出願人名	国名	2018年	前年比(%)
1	SIEMENS AG	ドイツ	2,493	12.3%
2	Huawei Technologies Co. Ltd	中国	2,485	3.6%
3	SAMSUNG GROUP	韓国	2,449	21.5%
4	LG GROUP	韓国	2,376	15.6%
5	UNITED TECHNOLOGIES CORPORATION	米国	1,983	15.4%
6	ROYAL PHILIPS	オランダ	1,617	-6.7%
7	QUALCOMM, INC.	米国	1,593	-14.1%
8	L M ERICSSON AB	スウェーデン	1,472	7.2%
9	GENERAL ELECTRIC COMPANY	米国	1,307	-4.7%
10	ROBERT BOSCH GMBH	ドイツ	1,286	-8.9%

出願人別上位件数では、2017年1位のHuaweiが僅差でSIEMENSにその座を譲りました。また、SAMSUNGとLGの合計増加件数(753件)が韓国全体の増加件数(839件)の90%を占め、デジタル通信、電気機械、エネルギー、コンピュータの技術分野の出願件数増加が上記国別件数の韓国前年比押し上げに大きく貢献しているようです。

《続報/2018年11月 外国特許トピックス「特許証原本の扱い(破棄した場合の問題点)」》

メキシコ特許庁は2019年3月19日より特許証を含む特許庁通知を電子データでのみ発行することを開始しました。特許証は申請すればCertified copy発行も可能です。メキシコは特許証原本を破棄しても問題ないとする国として紹介しましたが、電子化に向けてさらに一歩進んだようです。次はどの国が手を上げるでしょうか。

以上